不定期刊行　　第 532 号　2015.01.23

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
大町高等学校

第4回西地区登山部顧問雪山研修会報告　2（広島・西部伸也先生寄稿）

２日目６時５０分朝食、７時３０分宿舎出発。この日も風の家にて３台の車に乗り合わせ、蒜山盆地から新庄村へと抜ける野土路（のとろ）トンネルの出口のすぐそばにある朝鍋鷲ヶ山の取り付き点（旧道分岐点 700m）へ。旧道の取り付きからしばらくは雪がブルドーザーで掻かれてはいたものの、それも数百ｍで終わり、その先からは深雪を踏んでいくことになったが、道具を新調したＴ先生が先頭を快調に進んでいく。４０分弱で「国六林道」入口（830m）到着。小休憩ののち、ほぼ林道をたどって山頂へ。植林地帯から広葉樹林帯に変わると山頂も近く、蛇行する林道をショートカットして山頂部に出る。緩やかで広々とした山頂には展望台となる鉄骨櫓もあり、その上に登ると 360 度の展望が開けている。北方の大山には雪が舞っているのであろう、雲に隠れて稜線の形ははっきりとはしないが、鏡ヶ成周辺や蒜山などの手前の山はわりとくっきり見え、良い眺めだ。もちろん秀峰大山の真っ白な稜線が青空を背景にくっきり見えるに越したことはないのだが…。国六林道入口から山頂までは約１時間１５分。今日は山頂の風も穏やかで、展望台からの景色を楽しみつつ３０分ほどの大休止。(写真は２日目朝鍋鷲ヶ山のもので、山頂の展望台の上から見下ろして撮影されたもの）ちなみに山頂一帯の積雪は約 150cm（ゾンデ棒にて測定)。

なお、スノーシュー・わかん班のうち、若くて元気な藤原さん・三宅さんは、国六林道の途中からは、野土路峠（のとろたわ）から続く尾根に上がり、スキーでは厄介なアップダウンのある稜線を登ってきた。稜線からは蒜山などの北東方向の眺めが良かったに違いない。

さて、いよいよ下り（スキー班は滑降)。滑り出しは樹林帯の中を滑降し、ほどなくして林道（950m）へ。しばらくは林道沿いに下るが、登りで踏み固められたトレースはなかなか快適にスキーを滑らせてくれる。林道・旧道が大きく蛇行する地点（860m）からは植林帯の中をショートカット。最後は急斜面だが全員無事に旧道に降り立つ。あとは今朝の出発点まで旧道のトレースを快調に下っていく。山頂から今朝の出発点までほぼ３０分。さすがにスキーの下りは快適だ。所要時間は登りの４分の１。スノーシュー・わかん班が帰着するまでちょうど１時間待つこととなった。

車で風の家に戻り、そこで１２時半頃に解散式。道の駅売店で名物の蒜山大根やジャージーヨーグルトなどの土産を買い求め、またすぐ近くの「つるや」で昼食を済ませ、

それぞれ帰路に就く。

以上、今研修会の概略紹介でしたが、参加者のある方がいみじくも述べたように、「毎年積雪と天候に恵まれる西地区研修会」は今年もやはりそうでした。田中先生、いい研修会の企画・運営ありがとうございました。

さて来年は、中国の雪国県を一巡しましたので、再び広島で実施します。期日は今年同様１月３連休の初日・２日目（2016.1.9～10 の土日）、山もすでに考えています。１日目午後：広島の雪山入門にしてバックカントリー最適地の深入山（しんにゅうざん 1153m）、２日目午前：深入山の北西隣になるブナの天然林が素晴らしい臥竜山（がりゅうざん 1223m）。臥竜山のとりわけ山頂北東側一帯には樹幹の直径が１mを超えるような巨木がごろごろしており、一見の価値ありです。巨木の一部は夏道からも見えますが、自在に歩き回れる積雪期こそが巨木鑑賞には最適です。（なお、オプションも設定するなら、２日目午後：深入山別コース、あるいはリフトを使って広島県最高峰の恐羅漢山（おそらかんざん 1346m）。）宿舎は深入山麓の「いこいの村ひろしま」を既に予約しました。西地区はもちろん、他地区の先生方も大歓迎です。

「第５回西地区登山部顧問雪山研修会」の案内（実施要項）は、７月上旬の中国五県委員長会議時・８月上旬の全国委員長会議時には各県の皆さんにお示しし、少々早いのですが、９月末頃を参加申込締切とさせていただこうと思います。といいますのは、いこいの村ひろしまは九州方面のスキー客には人気の宿で、３年前の第１回研修会の宿舎の第一候補だったのですが、秋に予約を入れようとしたときにはすでに満室だったからです。このたびは「約２０人」で一応予約しているのですが、一般スキー客の予約が本格化する前の１０月の初めには、ある程度正確な人数で改めて予約しようと思っています。前回広島で開催した時は２５名の参加（内、宿泊は２２名）がありましたが、それを超える参加があると非常に嬉しく思います。

編集子のひとりごと

1 月 11 日 12 日の両日、我が信高山岳会（信濃高等学校教職員山岳会）恒例の新年会にあわせ、里山歩きをした。宿泊場所を鹿教湯温泉にとったので、初日は「富士山（鹿教湯富士）」2 日目は「独鈷山」へ。いずれも南面からのアプローチゆえ、雪もそれほどではなく、正月の不摂生を解消するのにはちょうど手ごろであった。かつて丸子町（現上田市丸子）に住んでいたころは、トレーニング代わりに独鈷山には何度も登ったが、この時期に登るのは初めてだったので楽しかった。信高山岳会も来年は、創立 35 周年を迎える。学校現場の多忙化も相俟って若い先生の加入も少ない。そんな中で、今回のメンバーは 60 オーバーの再任用、退職組が半分。会話も退職後の生活設計にまつわることが多くなってきたのは、時代の流れか。しかし、新年会に先立って行われた総会の場では、35 周年の記念事業としてネパールトレッキングなども話題に上り、夢を追う万年青年たちの気持ちは若い。30 年以上、ともに山に登り、酒を酌み交わしてきた愉快な山仲間たちとの交流は、何ものにも変えがたい。

一方で、今年もまた年明けから山スキーの遭難事故が相次いでいる。多くは山の怖さも十分知った上で計画も練り、適切な行動をとっているものと信じたい。楽しい山を楽しむために、楽しい山が忌まわしい山とならないために、無理は禁物。互いに年を重ねた岳友と独鈷山の上から素晴らしい景色を堪能しながら心に誓ったことだった。